



セレモニーでエピソードを披露する(右から)上田さん、木幡さん、大谷さんと(左から)高木衆院議員、菅野村長

3月11日「あたりまえをありがとうと思う日」制定

飯館村、日々の感謝誓う

飯館村は東日本大震災が起きたと願う日に、被災者が亡くなった三月十一日、制定した。同日、村役員を「あたりまえをありがとうと思う日」を一日で行う決意を新たにしている。

気づいたのです。原発事故の避難で、あたりまえが、実はちっとも、あたりまえじゃなかったこと。あたたかなご飯が、食べられること。畑の採れたて野菜が、味わえること。家のお風呂に、ゆっくり浸られること。家族が、一緒に笑っていられること。

あの日、なくした、あたりまえが、恋しくて、恋しくて、泣いて。そして、気づいたのです。あたりまえと、思っていた、毎日、は、たくさんの、尊い営みや思いやりや、愛情で、大切に、つむがれていたのだと。

飯館村は、3月11日を「あたりまえをありがとうと思う日」に制定します。あたりまえの日々への感謝を忘れないために、あたりまえの本当の意味を、未来に伝えたいから。

平成30年3月11日 飯館村

「あたりまえをありがとうと思う日」宣言

震災7年
原発事故

あの日から

三年は「山形市の避難所で温かいお湯を飲む、放射能の不安なく外で遊べたことがうれしかった」と原発事故直後の体験談を披露した。

昨年三月、伊達市の仮設住宅から戻村した上田秀さん(70)は、自宅の庭先で鶏舎のウチイヌを夫と肩づいた時が幸せな瞬間だったと振り返った。大谷さん、木幡さん、上田さんが村長の生前の言葉を基にした「あたりまえをありがとうと思う日」宣言を披露した。

セレモニーでは、村長三人が「あたりまえをありがとうと思う日」エピソードを紹介した。大谷結美さん(70)は飯館三年間は仮設校舎で学んだ経験から「学校に通ったり友達と遊んだりできるありがたみを感じたと話した。木幡善吉さん(70)は向

菅野典雄村長は「毎日、物がたまるという意識が広がれば、乗降しやすい村、県、国になつくと話した。高木衆院議員(比例東京、前原子力発電所地帯対策部長)が出席した。